

令和2年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 19	公益目的事業 19
主査名	大森宣暁 宇都宮大学教授	
研究テーマ	夜の生活活動と健康を支える都市と交通のあり方に関する研究	
研究の目的：		
本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に夜間の自宅内外の生活活動に参加でき、生活の質を向上させる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。		
研究の経過（4月～3月）：		
昨年度末に実施した、東京都市圏居住者に対する飲酒活動と健康および幸福感に関する Web アンケート調査データを分析した。飲酒活動の頻度や主観的幸福感に、性別、年齢、居住地、主観的健康感、飲酒活動の満足度等が影響を与えることを確認した。また、地方都市の衰退する歓楽街の活性化に関する研究の一環として、昨年度に引き続き宇都宮市の泉町・本町を対象に調査・分析を進めた。地元自治会や飲食店関係者らとの意見交換、情報提供 Web サイトの充実、コロナ禍での飲食店営業状況調査、街路の印象に関するインタビュー調査、歩行者交通量観測調査等を実施するとともに、スマホアプリによるスタンプラリーを活用した歓楽街の認知度向上実験、街路および沿道建物への虹色 LED 照明およびプロジェクションマッピング照射など、光演出を活用した街路の印象改善と新たな屋外飲食空間創出のための実験を実施した。その他、モンゴル国ウランバートルの大学生の余暇活動の満足度および幸福度と余暇活動へのアクセシビリティとの関係を分析した。		
研究の成果（自己評価含む）：		
繁華街活性化を目的とした一連の実験・調査の結果、光演出を活用した街路の印象改善や屋外飲食空間設置が繁華街の魅力向上につながる可能性があること、スタンプラリーなどのしかけにより実際に繁華街に足を運んでもらうことによって、認知度や印象が向上する人が一定の割合存在すること、夜の繁華街の街路景観の印象評価に、照度、色温度、植栽の有無が影響を与えること等が明らかとなった。さらに、ウランバートルの大学生にとっては、自宅周辺の余暇活動へのアクセシビリティよりも、大学周辺の余暇活動へのアクセシビリティが、余暇活動の満足度および幸福度に影響を与えることが明らかとなった。		
今後の課題：		
地方都市の歓楽街については、引き続き、地元関係者とともに今後目指す街の姿について議論を行った上で、歓楽街活性化の可能性について検討を行う。また、コロナ禍における夜の生活活動の実態と意識の変化および生活の質に与える影響、ポストコロナにおける人々の夜の生活活動を支える中心市街地と住宅地の役割を検討すること等を今後の課題としたい。		